

第 6 章

取組の進め方

6.1 仕組みと体制

都心まちづくりの理念の達成には、行政だけでなく、市民・企業・地域のまちづくり関係者など、多様な主体が連携・協働し、それぞれの役割・責任のもと、持続的にまちづくりを進めることが不可欠です。そこで、本計画の推進にあたっては、以下の仕組みと体制を構築します。都心全体の目標・ビジョンとして本計画を共有した多様な主体が参画する会議体が都心まちづくりのマネジメント機能を担うことで、実効性のあるまちづくりを進めます。

(1) 中期アクションプログラムの策定

本計画を実現するにあたって、具体的取組・施策をまとめたアクションプログラムを策定します。社会経済情勢など様々な変化にも柔軟かつ機動的に対応し、将来につながる都心まちづくりを着実に推進するため、おおよそ5年ごとに更新することとし、公民の取組を反映していきます。

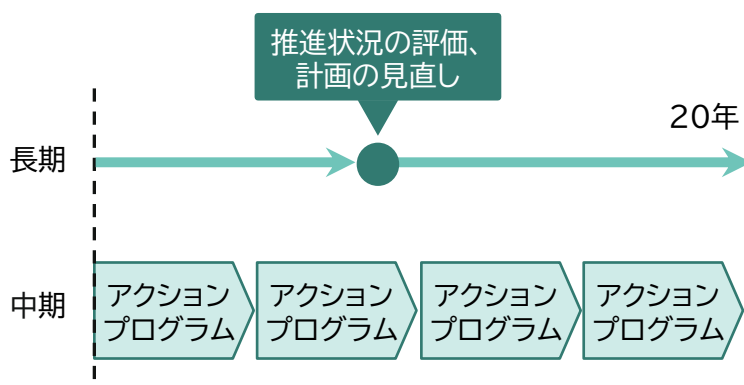


図6.1.1 アクションプログラムによる計画管理のイメージ

(2) 目標及び取組に応じた指標の設定

本計画では目標に応じた長期的な成果を評価する成果指標を設定していますが、短期的かつ取組ごとの変化を多面的な視点で捉えるため、様々な「モニタリング指標」を中期アクションプログラムにて位置付けます。

これまで都心まちづくり計画においては、効果の評価するデータの取得に課題がありました。モニタリング指標は、都心エネルギーマスタープランのノウハウを生かしながら、都心の進捗管理区域を対象に、さらにきめ細かく土地利用や交通、エネルギー利用の状況等を中心としたデータを収集し、推移を把握するために設定します。

また、まちづくりとエネルギー施策に関するデータを横断的に分析・評価を行い、進捗管理や取組の推進・施策の見直しに生かすだけでなく、多様な主体と共有することで、新たなニーズの把握や関係者間での都心まちづくりへの理解促進につなげ、まちづくりとエネルギー施策の相乗効果を見出していきます。

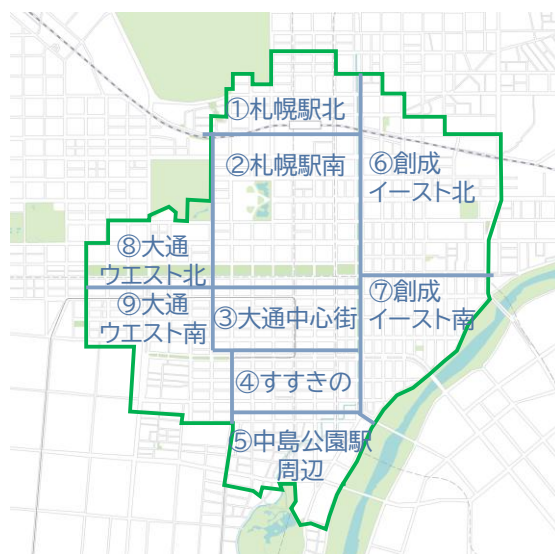


図6.1.2 ゾーン分けした進捗管理区域

(3) (仮称)都心まちづくり推進委員会の設置

本計画を策定するにあたり、『第3次都心まちづくり計画検討会』として、地域のまちづくり関係者、経済界の関係者、有識者に、部会にはエネルギー事業者や交通事業者などに幅広く参画していただき、都心まちづくりに向けた課題や認識を共有した上で、今後の取組の方向性について意見交換を行ってきました。

今後の都心まちづくりは、本計画に基づき多様な主体が連携し推進していく必要があるため、この検討会を発展させた「(仮称)都心まちづくり推進委員会」(以下、「推進委員会」という。)を設置します。

推進委員会は、成果指標に基づく計画の進捗状況やモニタリング指標をはじめとした都心の状況、新たな課題などを関係者間で共有・発信する場として位置付け、公民による具体的な取組について意見交換を行い、中期アクションプログラムや制度設計等に反映していきます。

また、必要に応じて専門部会を設置し、本計画で定めた三つの目標を実現するため、具体的なプロジェクトや専門的な課題について、詳細な調査や検討、社会実験の企画・実施などを行います。これらの取組を通じて得られた知見やアイデアは、推進委員会で共有・活用し、効果的な取組へとつなげます。

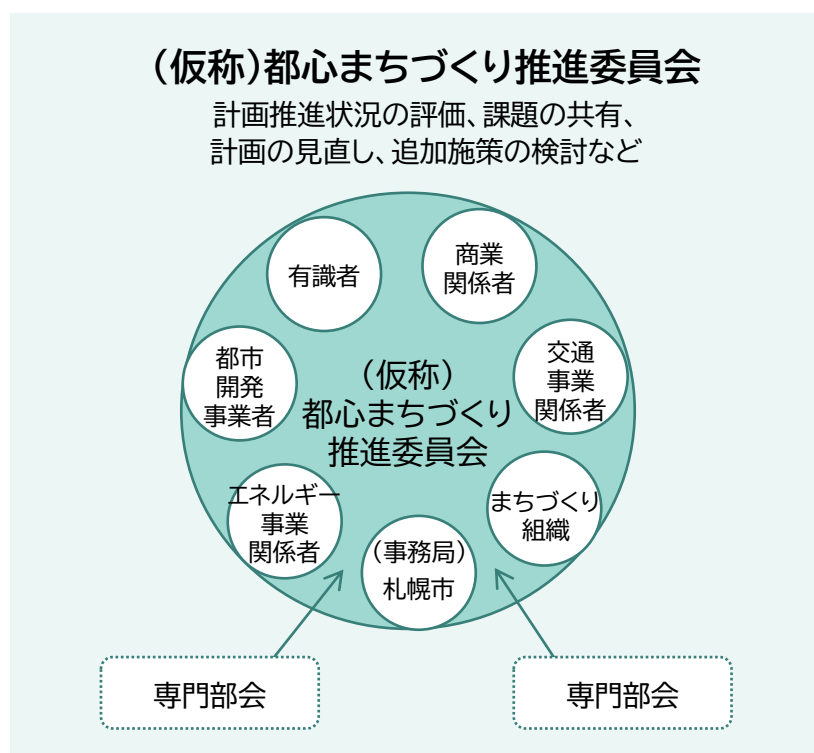


図6.1.3 (仮称)都心まちづくり推進委員会のイメージ

6.2 連鎖的な取組の展開

推進委員会で全体をマネジメントしながら、以下の三つの視点で取組の連鎖を促し、社会経済情勢の変化にも機動的に対応できる都心まちづくりを目指します。

(1) まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上

第5章で示したとおり、まちづくりとエネルギー施策を総合的・一体的に推進するため「札幌都心E！まち開発推進制度」の強化を図り、建物の脱炭素化とエリア価値の向上の双方につながる良好な開発を誘導・調整し、評価していきます。また、それらが都心まちづくりにもたらす効果について推進委員会で適宜確認し、誘導手法や制度を機動的に見直しながら本計画の実現性を高めます。



図6.2.1 札幌都心E！まち開発推進制度のイメージ

(2) エリア別・テーマ別の取組の更なる充実

新たなエリアにおけるエリアマネジメントの育成やエリア相互の連携を促すとともに、エリアに即した開発を地域が誘導する取組や未着手の分野などエリアの課題に応じた取組を支援します。

また、エリアを横断あるいは都心全体を対象とした、民間主体による課題解決やテーマに応じた取組に広がっていくよう、支援・連携を図りながら促進していきます。

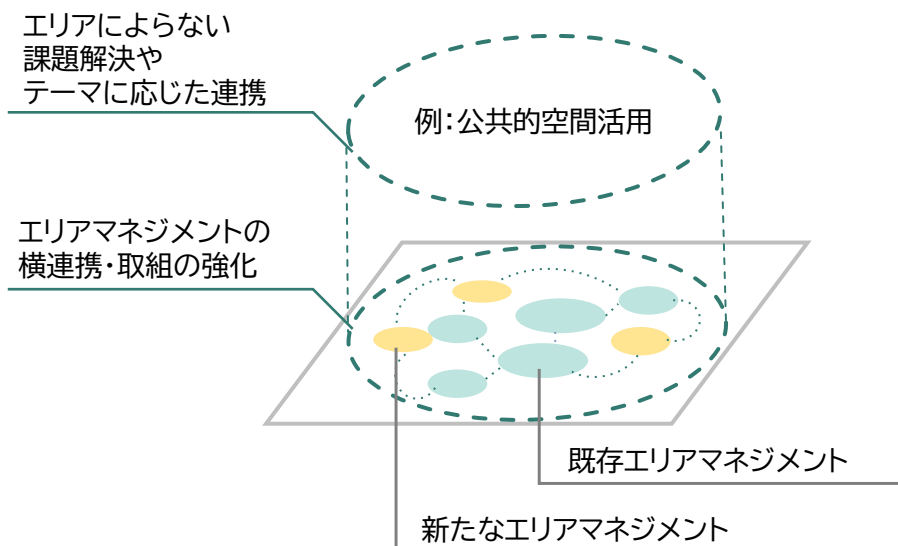


図6.2.2 取組のイメージ

(3) 市民・企業・行政などの協働

本計画の実現に向けては、まちづくりに関わる市民、企業、エリアマネジメント団体、行政などが将来像を共有し、協働して取組を進めていくことが重要です。

本計画に沿った取組の推進にあたっては、それぞれ以下のような役割を担って取り組み、一つの取組が新たな取組を誘発し、連鎖的な好循環を生み出すことを目指します。

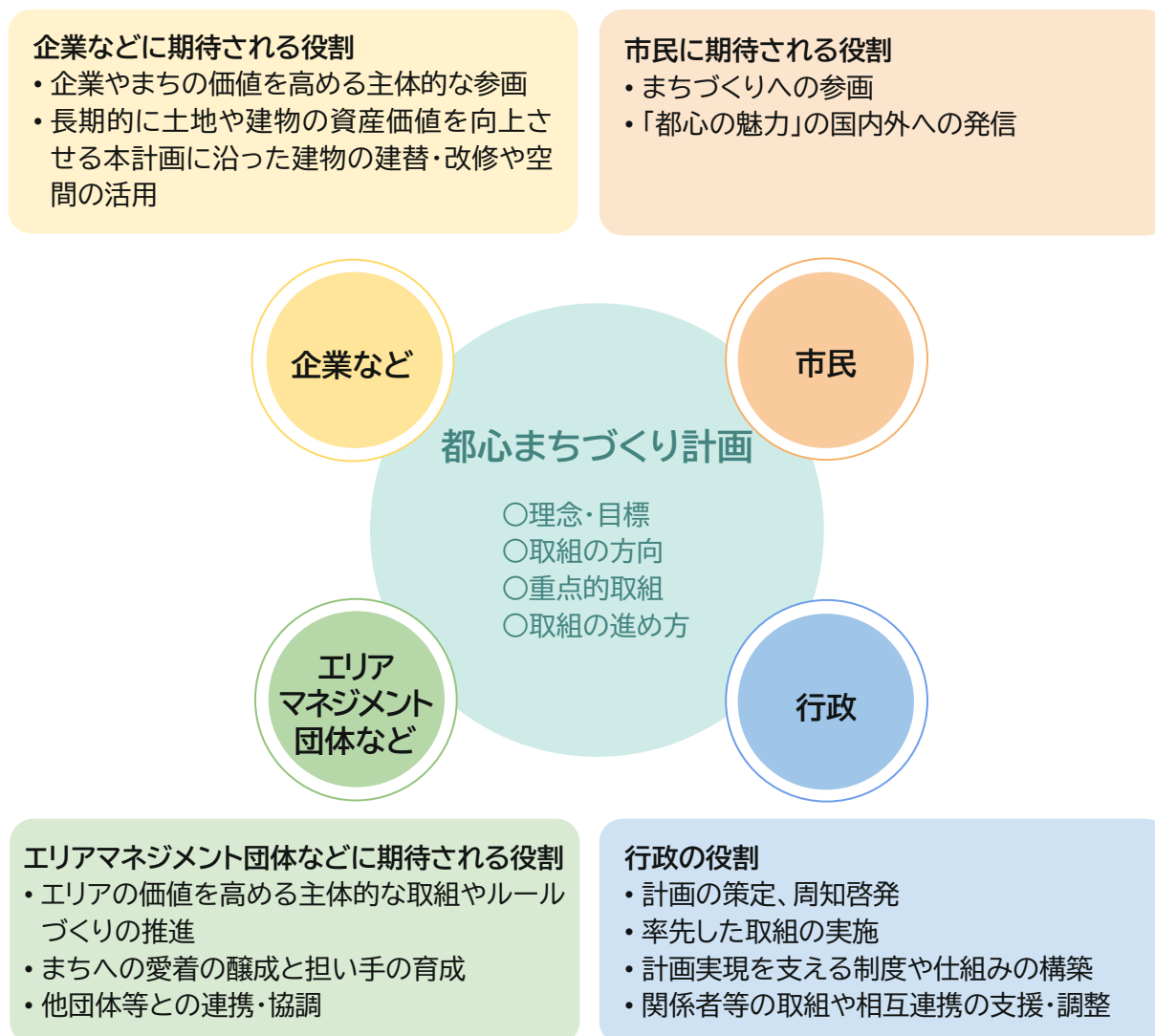


図6.2.3 各主体の役割

6.3 計画の実現に向けて

この計画で設定した大きな目標を実現するためには、市民をはじめ、公民の様々な関係者が価値観を共有し、連携しながら、長期的に取り組を進めることが求められます。

これから市民、企業、エリアマネジメント団体、行政などの関係者が、その時々に行えることを最大限に行い、個々の取組では生み出せない大きな効果を生み出すように、まちぐるみで挑戦を続けます。

そして、すべての人々に対し、大きなメリットや幸せをもたらすことを札幌都心は目指します。

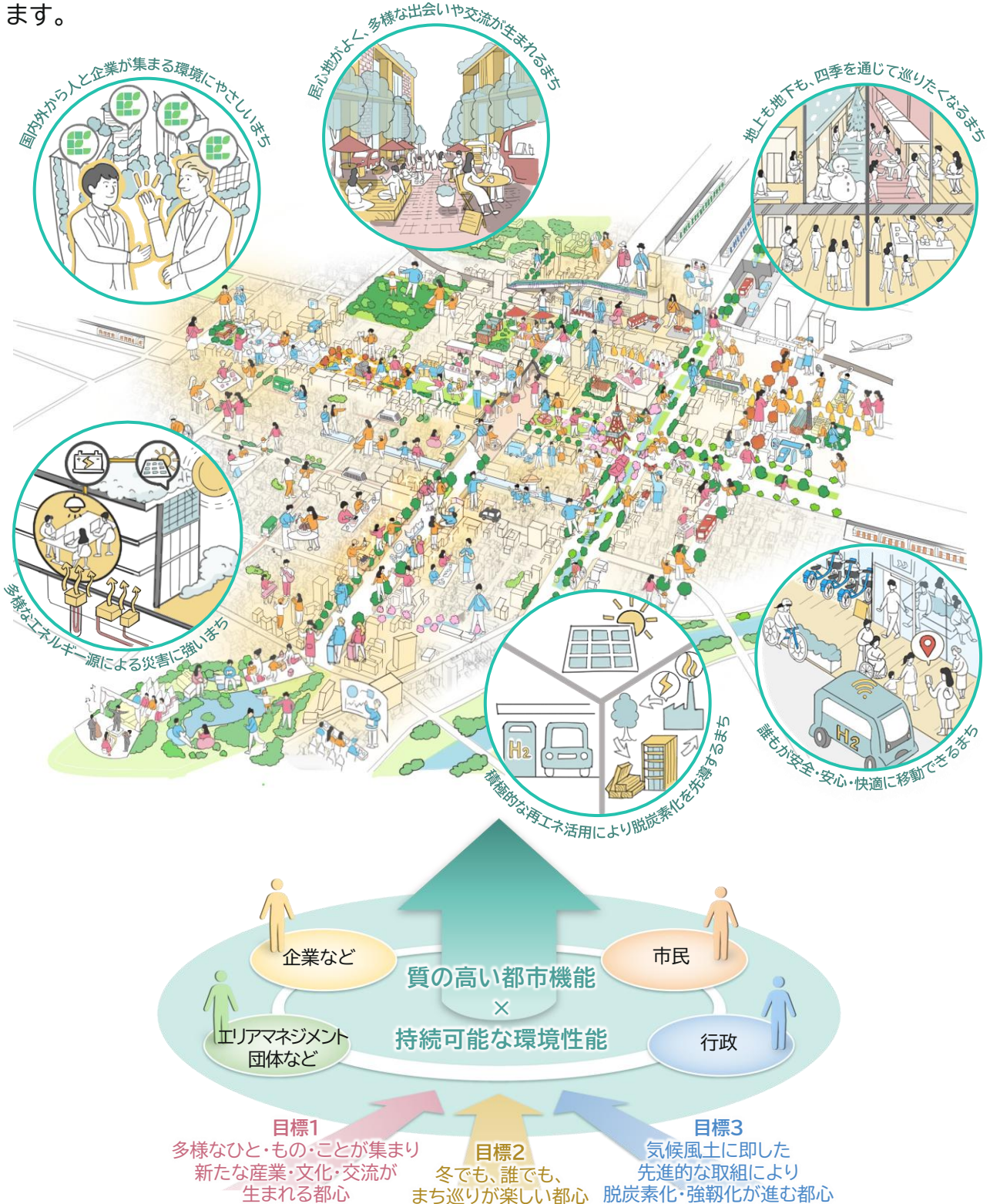


図6.3.1 札幌都心の将来イメージ